

第1学年社会科学習指導案

日時 平成16年度9月30日(金)5校時

学級 1年A組

男子9名 女子12名

場所 1年A組 教室

授業者 須藤 誠

1. 単元名

第2章 都道府県の調査 多面的に調べよう ~さまざまな地域からなる岩手県~

2. 単元について

本単元は、現行中学校学習指導要領(2)のイ「都道府県 47都道府県の中から幾つかの都道府県を取り上げ、地理的事象を見いだして追究し、地域的特色をとらえさせるとともに、都道府県規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身に付けさせる。」ことを大きなねらいとする単元である。また、本単元の内容の取り扱いについては、(2)のウ「イについては、二つ又は三つの都道府県を事例として選び、具体的に取り扱うようにすること。なお、事例として取り上げる都道府県については、学校所在地の都道府県を含めて選び、それぞれ特色のある視点や方法で追究すること。」に関わるものである。したがって、都道府県規模の地域的特色をとらえさせるとともに、特色をとらえる視点や方法を身に付けさせるために、適切な課題を設定し追究するという一連の作業を実際に生徒に行わせることが重要である。

岩手県は東は太平洋に面し、県の中央部を北上川が南北に流れる。古くは平泉に奥州藤原氏の文化が栄えたが、明治期以降は開発が遅れた。本県は、平地の少なさや、不利な気象条件を克服し、全国有数の農業県となっている。

農業では、米をはじめとして、リンゴ、タバコ、ホップなどが生産される。稲作はたび重なる凶作に見まわれたこともあったが、岩手県の気候に適応した品種が開発され、1953年には、日本で最初の河川総合開発計画である北上川特定地域総合開発が始まり、約2万haの水田が開発され、北上川流域は岩手の穀倉地帯と呼ばれるようになった。しかし、78年以降、減反政策が強化され、従来の稲作、畜産中心の農業から、野菜や果樹の生産にも力が注がれるようになった。

畜産業においても、日本有数の畜産県となっており、飼養頭数は乳用牛が全国第2位、肉用牛が全国第5位である。なかには乳製品加工工場をつくり、酪農を新たな地場産業として発展させようとしている町村もある。

水産業では、三陸海岸の海底は、岩礁あるいは砂礫地のため水生動植物が繁殖しやすく、岩礁地帯にすむ魚や、アワビ、コンブ、ワカメ、ウニなどの宝庫となっている。また、沖合は寒流の親潮と暖流の黒潮、さらに沿岸流の津軽暖流が交わる海域で、長距離回遊魚や沿岸性回遊魚が豊富に集まり、沿岸漁業や沖合漁業を中心とした好漁場になっている。三陸海岸には良港が多く、大型船による遠洋漁業も盛んである。稚魚や種苗を放流する栽培漁業や、養殖漁業も盛んに行われている。

工業では、日本で最初の洋式高炉が設置され、近代製鉄業発祥の地となった釜石市は、新日鉄釜石

製鉄所の企業城下町として全国有数の製鉄の町に発展したが、鉄鋼不況の中で 1989 年に高炉の火は消され、130 年に及んだ製鉄の幕を閉じた。東北新幹線や東北自動車道の開通以降、盛岡市、一関市をはじめとする工業団地には、精密機械、電子部品など先端技術関連の企業が進出してきている。また、盛岡市の南部鉄瓶、水沢市の鋳物業、農村部の食品加工業など、伝統的な産業もみられる。岩手山麓の松川には豊富で高温の温泉を利用した地熱発電所がある。これらのことを生徒から引き出し、気づかせるように心がけながら学習を進めたい。

3. 生徒の実態及び指導について

生活においては活発である反面、落ち着きに欠けているところがあり、男子生徒が全体的に幼い。男女の仲は良く、学級としてのまとまりがある。学習においては理解力が高い生徒が多いと思われるが、男子の基礎学力は全体的に低い。論理的に物事を考えることができず、単語的な発想にとどまっている事が多い。授業に関しては、普段から全体的に社会科の授業を好む傾向があり、本單元においては、調査活動に協力をしながら、大変意欲的に取り組んでいる様子が伺える。しかし、まとめの作業になると、基礎学力の低い生徒は、活躍が少なくなってしまう。発表会では、全員の出席があるように工夫して、班としての達成感も味合わせたい。

この單元は都道府県を単位としての学習を通して、統計資料の収集、処理、考察を行い、最終的には自ら課題を設定してそれを追究する力を養うことが目的である。指導要領では、自分の都道府県の調査と自分以外の都道府県の調査を行うとされている。自分の都道府県の調査では、静態的地誌を行わせ、地域を様々な視点から捉え総合的に地域の特色を明らかにさせたい。自分の都道府県以外での学習では、動態的地誌で因果関係を追究させたい。

しかし、学校の環境上、調査手段が少なく、また外に出て調査することが困難なので、今回は教師が岩手県の市町村パンフレット等を準備し、加えてインターネットや図書室の資料を使い、班ごと分担して調査を行わせ、最終的に全員で一冊の岩手県調査レポートを作ることで情報の共有化を図り、発表活動につなげたい。

本校の研究に関わっては基礎学力の定着に向けて社会科でも「読み・書き」の作業を大切に扱い「読み」に関しては「字面を読むのではなく言葉を読む」ことを意識させ、普段の授業から国語辞典を頻繁に使い「意味を理解した上での読み」を行わせてきた。本時の発表会においても、専門用語を並べるのではなく自分の言葉で置き換えて解りやすく説明するという意識させて行っている。また「書き」については、一字を正確に扱い、ただ書くのではなく相手に伝わりやすいまとめ方を意識させた上で、作業を行わせている。

4. 単元の目標

自然、産業、生活、他地域との結びつき等の多面的な視点から調べ、総合的に岩手を捉えさせる。

写真、地図の読みとり、統計資料の収集、整理等の総合的な活動をさせる。

5. 指導計画

第 2 章 都道府県の調査 (配当 10 時間扱い)

1. 岩手県の市町村を調べよう.....1 時間
2. 地域で異なる自然とくらし.....1 時間
3. 地域の自然を生かした生活.....1 時間
4. 地域と産業の結びつき.....1 時間
5. 他地域との多様な結びつき.....1 時間
6. 調査レポートをまとめよう.....2 時間
7. 岩手県について理解を深めよう (発表会)1 時間 (本時)
8. 統計から見る岩手県.....1 時間
9. これからの岩手県を考える.....1 時間

6. 本時の指導

(1) 本時の目標

発表に工夫を凝らし、調査結果が明確にわかるように伝えることができる。
 調査結果を元に、自分の考えをはっきりと述べることができる。
 発表者に注目し、疑問点や意見を出し合うことができる。

(2) 本時の評価基準

観点	評価基準	具体の評価規準			評価方法
		A (十分満足である)	B (概ね満足である)	C (支援の手立て)	
社会的事象への関心・意欲・態度	都道府県に対する関心を高め、その調査に意欲的に取り組み、都道府県の地域的特色をとらえようとしている	岩手県政に自ら関わろうとする意欲を感じる	岩手県について知っていることを意欲的に発表できる	自分の住んでいる都道府県について関心を持たせる	・授業での様子 ・プリント
社会的な思考・判断	都道府県の地理的事象から課題を見だし、それを環境条件や人々の営みなどと関連付けて多面的・多角的に追求するとともに、都道府県規模の地域的特色をとらえる視点や方法を考察している	調べたい視点を幾つか持ち、総合的なテーマを設定する	岩手の抱えている課題を予想し、調べたい視点を模索する	岩手県の抱えている課題を考えさせる	・授業での様子 ・プリント ・定期テスト
資料活用 of 技能・表現	都道府県に関する地図や統計その他の資料を収集し、有用な情報を適切に選択して活用するとともに、都道府県の地域的特色を追究し考察した過程や結果をまとめたり、発表したりしている	自ら資料を選択し、調査したい観点を明確にできる	提示した統計資料から特色を読み取るができる	資料等から特色の読み取り方を理解させる	・授業での様子 ・プリント ・定期テスト
社会的事象についての知識・理解	都道府県の地域的特色とともに、都道府県規模の地域的特色をとらえる視点や方法などを理解し、それらの知識を身に付けている	岩手の特色を踏まえ、課題となる視点を明確にできる	岩手の主な地名、地理的特色を理解している	岩手の主な地名、地理的特色を理解させる	・授業での様子 ・プリント ・定期テスト

(3) 本時の展開

過程	学習内容	学習活動	
		生徒の活動	指導上の留意点
導入 (5分)	今日の学習内容を知る。 < 課題の提示 >	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に発表内容をまとめ、準備しておく。 ・本時に何を目標とすれば良いのかを把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで調査してきた岩手県の市町村の発表会を行うことを知らせる。 ・メモを取りながら、聞き、理解を深めるように指示をする。(評価) ・生徒が適度な緊張感を持てるように配慮をする。 ・評価プリントの配布

本時の課題：岩手県について理解を深めよう			
展開 (40分)	<p>1 班から、順に発表を行う。</p> <p>【発表内容】</p> <p>< 各班 10 分程度 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当地域全体の調査発表 ・質議応答 ・感想発表 (アドバンス等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表をする班は、全員で分担をしながら発表を行う。 ・聞く生徒は、評価プリントを使用しながら評価を行う。 ・学習プリントにメモを取りながら聞く。 ・質疑を行い、内容を深め合う。 ・聞いた生徒から、発表者へアドバンスを含めた感想発表を行う。 <p><1 班に対し 2 人程度></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師は、発表する生徒、聞く生徒を評価する。 ・教師は必要に応じて、補助を行う。 ・挙手者がいない場合は、感想発表者の指名を教師が行う。 ・指名する生徒には事前に告知する。
終末 (5分)	<p>教師からの講評 (まとめ)</p> <p>次時の連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次時は今まで様々な方法を利用して調べてきた岩手県を統計の視点から分析することを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の学習内容を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間がある場合には、生徒の興味を引き出すために、次時の内容に少しだけ触れる。

(4) 評価の観点

調査活動・発表学習で学習内容に関心を持って積極的に活動していたか。

(社会的事象への関心・意欲・態度)

資料を活かしたまとめ方ができたか。

(資料の活用の技能・表現)

地域の特色を地理的な事象と関連づけて考えることができたか。

(社会的な思考・判断)

発表を聞き、新しい知識を習得できたか。

(社会的事象についての知識・理解)